

日本医療研究開発大賞受賞者（1）

賞名	受賞者団体・受賞者名	タイトル	受賞のポイント
内閣総理大臣賞	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪大学 医学系研究科 教授 金井 好克 ○田辺三菱製薬株式会社 	SGLT2の分子同定とその阻害薬の開発	腎臓で糖再吸収を担うタンパク質SGLT2を同定。それを阻害し糖の再吸収を抑え血糖値を下げる新たな作用機序の2型糖尿病治療薬のコンセプトを確立し、治療剤として実用化。
健康・医療戦略担当大臣賞	○公益財団法人実験動物中央研究所	最先端実験動物の開発による医療分野の研究開発への貢献	1952年創設以来、実験動物の飼育技術の確立、動物の品質管理研究を行い、日本の実験動物学の発展に大きく寄与。また、臨床と基礎を結ぶトランスレーショナル研究のための動物実験系の開発と提供を行い、インビボ実験医学という科学領域を確立。
文部科学大臣賞	○理化学研究所 生命機能科学研究センター チームリーダー 竹市 雅俊	カドヘリンの発見と多細胞体制構築機構の解明	細胞同士の接着のために働くタンパク質-カドヘリン-を発見。動物の発生、癌細胞の異常行動、神経疾患等の理解を深めるために多大な貢献。
厚生労働大臣賞	<ul style="list-style-type: none"> ○オリンパス株式会社 ○トロント大学附属トロント総合病院 呼吸器外科教授 安福 和弘 	EBUS-TBNAシステムの開発	超音波内視鏡に吸引生検針を組み合わせることで、リンパ節を含む気管・気管支周辺を低侵襲で病理診断できる機器を実用化。従来型の肺がんステージング診断方法における合併症等の課題を克服。
経済産業大臣賞	<ul style="list-style-type: none"> ○株式会社メトラン ○聖路加国際大学 名誉教授 宮坂 勝之 ○国立成育医療研究センター 手術・集中治療部 診療部長 中川 聡 	新生児小児用HFO人工呼吸器の開発と海外事業展開	新生児・小児への負担の小さいHFO人工呼吸器を開発、実用化（HFO: High frequency oscillation 高頻度振動換気）。日本の新生児医療に大きく貢献するとともに、海外にも展開。

日本医療研究開発大賞受賞者（2）

賞名	受賞者団体・受賞者名	タイトル	受賞のポイント
AMED理事長賞	○鳥取大学 大学院医学系研究科/染色体工学研究センター 准教授 香月 康宏(かづき やすひろ)	人工染色体技術を用いたヒト化マウス/ラットおよび多機能細胞による創薬支援	従来の遺伝子導入技術では導入できなかった、重要な薬物代謝酵素であるヒトCYP3AクラスターならびにヒトUGT2クラスターの遺伝子のラットへの導入に世界で初めて成功。ヒト化ラットの作製が可能になり、創薬研究等への貢献が期待。
AMED理事長賞	○東北大学 高等研究機構 未来型医療創成センター 助教 高山 順(たかやま じゅん)	「日本人基準ゲノム配列」初版JG1の作成・公開	日本人集団の遺伝的多様性を反映した日本人基準ゲノム配列JG1を構築。JG1は日本人の希少疾患やがんのゲノム解析を高精度化。JG1の解析情報基盤を整備、平成31年2月に一般公開し、普及に努めた。
AMED理事長賞	○理化学研究所 脳神経科学研究センター チームリーダー 村山 正宜(むらやま まさのり)	触覚関連疾患の脳内メカニズム解明に繋がる生理的な知覚とその記憶の神経基盤解明	触覚やその記憶に関わる新規脳回路を発見。疼痛や体感幻覚を含む触覚関連疾患さらには記憶・認知障害などのメカニズム解明に期待。
AMED理事長賞	○東京大学 医科学研究所 特任准教授 山崎 聡(やまざき さとし)	造血幹細胞の低コスト大量培養技術の開発	通常培養で使用する高価なタンパク成分の代わりに安価なポリビニルアルコール(液体のりの主成分と同様)を用いることで、造血幹細胞を安価で大量に培養できる技術を開発。細胞治療のコスト削減や白血病を含む血液疾患の幹細胞治療への貢献を期待。
AMED理事長賞	○九州大学大学院工学研究院 機械工学部門 流体医工学研究室 教授 山西 陽子(やまにし ようこ)	針なし気泡注射器を用いた低侵襲網膜血栓除去新技術の開発	網膜静脈分枝閉塞症に対し、針なし気泡注射器で網膜静脈血栓部へ電界誘起気泡による低侵襲物理的刺激を血管(血栓)へ与えることで血流を回復・改善させる技術を開発。